

洋弓部

回顧一九七三年

丸山 恵 右(E・23)

美女一七名、野獣四八名(家禽かも?)。この大集団が我が神戸大学洋弓部である。小生と三年の紅一点松本嬢、華麗なるフォームの刈田氏が主務であり、会計の鈴木氏を加えて洋弓部のマネージメントを担当している。小生の弓はセコハンではあるが、世界の名弓「ホイット」(アメリカ製)であり、高得点を出せるはずであるが、どういわけか今年は点数を出してくれなかった。ひよっとすると、わがホイットにきらわれ、ふられたのかも……。とにかくこの一年をふりかえるとしよう。

まず五月の幹部交代の後のコンバ(それも一次会)での自滅から、小生の主務活動がはじまった。三〇数名の一年のだから弱いやつを、つぶしてやろうとしたのに、あわれにも小生がダウン。もう一つあわれなこと。介抱してくれたのは、やさしくて親

切な男子部員。一次会の会場からタクシーで小生の下宿まで、彼はちゃんと送ってくださった。夏の最大の行事の夏合宿は、志賀高原の発音温泉の岩管ホテルで今年はおこなわれた。通称「...わい、すげーホテル」である。ここでは小雨の中で寒さにふるえながら射った。(小生はふるえながら射つのは得意だが。)夏でも寒いのは、木曾ばかりではない。そんな夜、風邪と疲労でぐったりして、つい警戒を怠って、うとうとした。そのとたん、手足を押しこまれた。この襲撃のつらさは、後で効いてくるのである。具体的内容は残念ながら割愛する。とにかく「攻撃は最大の防御なり」との教訓を得た。小生のにが夏の夏が過ぎ、半袖のユニフォームでは涼すぎる季節がくると、冬用のユニフォームをつくらねばならない。なにしろ一年の数が数である。小生が一回生の時は、たしか先輩のユニフォームで部屋におちているものをもつて帰り洗濯して着た。しかし、そんなことはできるはずもない。そこでスポーツ用品店へ。あーなんとという物価高。予算内では、高校生がよく着る白または紺の体操シ

ャツシかないのである。結局、白地にオレンジの文字をたのむことにした。ところが、できあがりを見てまたがっかり。Kの頭文字が左胸にある。洋弓では左にチェストガード(一種のプロテクター)をするため右にマークをつけなくてはならないのだ。とんな自分にあきれ、やはりコンバ以来今年はないとの感をつよくした。その上、クラブの雀のいうことには、「今年度のユニフォーム、バジヤママたい。」こんなついでない一年もめずらしい。ついでいるといえ、この一年で覚えたマージャンで一回国士無双があがったことぐらいだろう。来年こそ、麻雀はもちろん、主務として、またアーチャーとして、つきまくる一年をと願っている。天にましますわれらが父よ、願わくば……………」

最後に「フレ、フレ、神戸」「神戸大学洋弓部、バンザイ！」

☆

☆

☆

六甲 第四号

一九七四

神戸大学体育会



1974

vol. 4 神戸大学体育会